

Manual do sensei da ABC

Ensinando Japonês

Um Guia Prático para Educadores

日本語教師を目指すあなたへ

JLPT N3 レベルの日本語指導法

- ☑ 初回授業の進め方
- ☑ スタートの授業
- ☑ 漢字学習のポイント
- ☑ 宿題と復習の進め方



ブラジルにおけるキャリアアップ支援事業/草の根技術協力事業

Projeto de Apoio ao Desenvolvimento Profissional no Brasil / Projeto Kusanone

Realização



Parceria



Coordenação



はじめに

本マニュアルは、試験対策授業などで初めて日本語教育を行う指導者を対象に、効果的な指導法を解説しています。日本語教育の現状や指導の基本方針を含め、学習者のニーズに応じた柔軟な授業運営をサポートする内容を網羅しています。

目次

日本語教育の現状	2
授業のバランス	2
オンライン教育の課題とツールの活用	2
コース概要	2
レッスンの基本構成	3
初月の学習内容例	3
第1章 初回授業の進め方	4
1. 自己紹介の進め方 2. 教科書の使い方と予習の指導	
第2章 第1回目の授業	5
1. ウォーミングアップ 2. 宿題の確認 3. 新しい文法導入の例文	
第3章 漢字学習のポイント	9
1. 漢字指導の基礎 2. 漢字学習のコツ 3. 漢字学習の目標 4. 全体の指導方針	
5. 漢字の練習 6. 漢字学習における生徒の声の重要性 7. 復習法	
第4章 宿題と復習の進め方	14
1. 効果的な宿題の指示 2. 学習習慣を身につけさせる復習法 3. 指示	
第5章 その他	15
1. 動詞の活用の課題 2. 形容詞の活用 3. 教科書の例文と語彙の課題	
4. 語彙の導入における注意点 5. 複合動詞について 6. オンライン授業でのツール活用	
7. 例文を英語やポルトガル語に翻訳する際の問題点 8. 授業中の生徒の発言の必要性	
9. 学習者の自己学習支援 10. 学習者向けの簡単な「振り返り活動」 11. 教師の自己評価と成長支援	
12. 文化理解とビジネスマナー 13. 敬語導入の注意点 14. 模擬試験	
N3文法リスト(教科書：トライN3を参考に)	28
文法項目の導入に関する考察	30
最後に	30
未来の指導者へ	31

日本語教育の現状

日本語教師は、ジェスチャーやカタカナ語、英語などを活用し、学習者に日本語を教えています。易しい表現に言い換える工夫が求められる一方、「易しい日本語」という概念は必ずしも学習者にとって分かりやすいわけではありません。

例えば、「可能性」や「予定」といった抽象的な表現を簡単な日本語に置き換えるのが難しい場合があります。学習者がこれらの語彙を理解し、日本語の文法を日本語で学び、さらに会話や文章で活用できるようにする工夫が必要です。本書では、そのための具体的な方法を提案します。

授業のバランス

言語教育では、母語と目標言語の適切なバランスを取ることが重要です。本書では、日本語のみを使った授業と母語や英語を適度に利用する授業の利点と課題について解説し、指導者がバランスを取るための具体的な方法を示します。

オンライン教育の課題とツールの活用

スマートフォンを利用する学習者の増加に伴い、視覚的で対話的な授業が求められています。本書では、オンラインと対面授業の両方で活用できるツールや指導法を紹介し、多様な学習環境での実践を支援します。

コース概要

目標	JLPT N3 合格
期間	6 か月
授業頻度	週 1 回、2 時間
総レッスン数	全 26 回(合計 52 時間)
教科書	トライ
宿題・復習	音読練習、作文、漢字問題

レッスンの基本構成

時間	内容	備考
3分	ウォーミングアップ	日付や週末の出来事について質問
15分	宿題の確認	宿題を音読し、質問への回答
80分	新しい文法の導入	例文やジェスチャーを使用し説明
20分	漢字	自学自習の重要性

初月の学習内容例

日時	授業内容（文法）			
	文法項目	語彙	文法用語	Can do
初回	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介(一分くらい) 教科書の使い方 文法+「漢字・語彙」 音読の必要性 6 ～と／～たら(N4) 9 ～続ける(N4)	宿題 教科書、本、辞書 すっかり、待ち合わせ、 目が覚める ハチ公、主人	予習、復習、練習 過去(形)、びっくり、 意外 経験、表す	文法の説明を日本語 で理解する
第1回目	21 ～による／ ～によって 22 ～に対して 23 ～ため(に) 25 ～(の)とおり	満足する、～度、開催、講義、 委員、公用語、国際化、目指す 援助、効果的な、治療法、要求 回答、愛情、計画、開発、住民 観光客、受験、大型、～代、 値上がり、渋滞 想像する、体操	理論、評価、手段、方法 目上、敬語、直接、態度 意見、問題、失礼、反対 要求に応じる 原因、理由 予想する	市の報告など、身近 な情報源の書き言葉 に慣れる
第2回目	27 ～のような／ ～のように 28 ～によれば／ ～によると 29 ～ということです 30 ～について	うつる、われわれ、プロ、梅雨、 洗濯物、体力、激しい、世の中 大都市、区役所、カロリー 不健康な、朝市、掲示板、導入 商店街、大幅に、短縮、非常に	代表的 情報 情報の内容 指示、話題	
第3回目	31 ～てる 32 ～なきや 33 ～つけ 34 ～たりして?	具合 クーポン券、電池、ディナー キャッシュカード	省略する はっきり、確認	

※教科書には、文法項目の右端に★マークが付いています。★が一つの項目は、理解できれば十分とされる内容です。これらの項目は、時間の関係で学習者から質問があった場合のみ取り上げます。また、1～20の文法はN4レベルの内容であるため、学習者に復習するよう指導します。

第1章 初回授業の進め方

1. 自己紹介の進め方

学習者の日本語力を把握するよい機会です。自己紹介の中で、以下の点に注意して観察します：

- ・言葉適用が統一されているか
- ・適切な言葉が使えているか(友達感覚の話し方をしていないか)

自己紹介は一分程度で行い、長くなりすぎないようにします。また、自己紹介を始める前に、「〇〇は日本語で何ですか」といった質問には答えないことを明確に伝えます。学習者には、自分がわかる日本語で自己紹介をするよう求めます。

2. 教科書の使い方と予習の指導

(1) 語彙を事前に調べる注意点

教科書を使うときは、学習者に予習の必要性を伝え、語彙を調べる際の注意点を説明します：

- ・文全体の翻訳は避ける（理由：日本語文の構造が身につけにくくなるため）

(2) 宿題の提示方法

教科書の活用方法や宿題の提示について注意します：

- ・次回の授業の準備を明確にするため、学習者に必要な宿題を細かく指示します。

(3) 音読の必要性

音読練習を行うことで以下の効果があります：

- ・発音の上達
- ・ネイティブに近い読み方の習得
- ・会話力の向上

また、日本語の音やリズムに慣れるためにも有効です。

(4) 初日の内容

初回の授業では、以下の内容を扱います：

- ・N4レベルの文法の説明
- ・今後の授業方法の紹介

事前に学習者へ、次の準備を伝えます：

- ・次回学習する文法用語の意味を調べておく
- ・教科書の例文に出てくる新しい語彙（例：「満足する」「目指す」）の確認

また、各課で使う語彙や文法用語をノートにまとめると便利だとアドバイスします。ノート作成、学習、復習の最低3回反復させることで記憶に定着させます。

- ・メインテキストの音読練習

少しの予習をすることで、学習内容への理解が深まるとともに授業がスムーズに進みます。

第2章 第1回目の授業

1. ウォーミングアップ

授業に入りやすくするため、日付や週末の出来事について質問し、簡単な日本語で会話を行います。

例：今日は何月何日ですか？

週末は何をしましたか？

日本語で何がいちばん難しいですか？

または、基本的な質問を取り入れます。

例：〇〇さんですか？ ➡ 自分に「さん」を使わないで答えられるか確認する。

2. 宿題の確認

(1) 宿題の確認 (N4レベルの文法)

宿題に関する質問がないか確認します。特に質問がなければ、任意の問題をピックアップし、生徒に答えさせます。

声に出して読むことで、**発音やイントネーションの改善**を図るとともに、フリガナのない漢字の認識を促します。

(2) 音読発表

- ・メインテキストの会話文を用い、複数の生徒とともに音読練習を行う。
- ・必要に応じて教師とアシスタントが補助する。

音読は「プレゼンテーション」と捉え、生徒が練習の成果を発表する場として位置付ける。

3. 新しい文法導入の例文

文法説明

- ・新しい文法の説明は簡潔にまとめる。
- ・脱線しそうな質問には、「後で説明します」または「グループページに共有します」と伝えて対応する。

例文作成のポイント

①語彙の簡略化：

- ・難しい N3 レベルの語彙は避け、簡単な語彙を使用した例文を作成する。
- ・難しい語彙は文法理解の妨げになる可能性があるため、配慮が必要。

②接続語の埋め込み：

- ・接続語彙や動詞の活用に重点を置いた例文を作る。
- ・太字で示した語彙は、事前に生徒に調べてもらおうと良いだろう

【文法 21：「～によって」「～による」】

〈1〉意味と使い方

「～によって」

- ◎主に手段・原因・行為者を示すときに使います。
- ◎後に続く言葉がなくても文として成立します。

例：「インターネットによって、世界中の人と話せます。」（手段）

「この薬によって、病気が治りました。」（原因）

「この本は先生によって書かれました。」（行為者）

「～による」

- ◎名詞を修飾する形で、手段や原因、行為者を説明します。
- ◎名詞が続かないと文として成立しません。

例：「インターネットによる情報収集が一般的になりました。」（手段）

「この薬による効果はとても良いです。」（原因）

「先生による説明はわかりやすいです。」（行為者）。

〈2〉 接続のルール

～によって	～による
名詞＋によって	名詞＋による＋名詞
例：技術によって問題を解決する。	例：技術による解決策が提案されました。

〈3〉 「～によって」と「～による」の違い

～によって	～による
そのまま文が完結する。	後に名詞が必要。
例：この薬によって病気が治りました。 （「病気が治った理由」がこれだけで明確。）	例：この薬による効果はとても良いです。 （「効果」という名詞を含めて意味が完成。）

〈4〉 例文（手段・原因・行為者）

～によって	～による
〈手段〉 メールによって連絡することができます。	〈手段〉 メールによる連絡が一般的です。
〈原因〉 大雨によって、試合が中止になりました。」	〈原因〉 大雨による被害が深刻です。
〈行為者〉 この絵は有名な画家によって描かれました。	〈行為者〉 有名な画家による作品が展示されています。

〈5〉学習活動例

①穴埋め問題

例：「この研究は、日本の科学者_____完成されました。」 答：「によって」

②例文作成

「～によって」と「～による」を使った文をそれぞれ作り、ペアで確認します。

③視覚教材の活用

ジェスチャーやイラストを使い、手段や原因を視覚的に説明します。

この構成でまとめることで、学習者が「～によって」と「～による」の使い方と違いを一度に学べるようになり、理解が深まる内容になっています。

【文法 22 「～に対して」】

意味：「人に何かをするとき」や「態度を表すとき」に使う。

例文：

1. **先生に対して**失礼なことを言ってはいけません。
2. **両親に対して**やさしい気持ちを持ちましょう。

接続：名詞 + **に対して**(は／も)

助詞「は／も」を省略した形で導入すると、文法そのものに集中しやすくなる。

残りの文法【文法 23 「～ため(に)」／文法 25 「～(の)とおり」】

- ・他の文法も同じ構成で説明を進め、「意味」→「例文」→「接続」の順で整理する。
必要に応じて省略形を活用し、学習者が集中しやすいよう配慮する。

第3章 漢字学習のポイント

1. 漢字指導の基礎

*「漢字は昔、中国から日本にきた文字です。1つの漢字には意味があり、形や読み方によって使い方が変わります。たとえば、「日」という漢字は「太陽」や「日付」という意味を持ちます。この漢字の読み方は「ひ」や「にち」などがあります。」*簡潔で明瞭な表現にし、学習者が聞いてすぐ理解できる日本語に調整しました。

①形（部首）

漢字には「部首」という構成要素があります。部首は漢字の意味やグループを表すヒントになります。

例：

「木」：木や植物に関する漢字 → 「森」「林」

「水」：水や液体に関する漢字 → 「海」「河」

②読み方

漢字には「音読み」と「訓読み」の2種類の読み方があります。

- ・音読み：主に中国語の発音をもとにした読み方（例：「学校」＝がっこう）
- ・訓読み：日本語の意味や発音に基づいた読み方（例：「山」＝やま）

③画数

漢字は線の数（画数）で成り立っており、画数が多いほど複雑になります。最初は画数が少ない簡単な漢字から学びます。

2. 漢字学習のコツ

(1) 反復練習

漢字を書くことで、形やバランスを覚えます。例えば、毎日10回ずつ同じ漢字を書いてみましょう。

(2) 音読

漢字を含む単語や例文を声に出して読むことで、読み方と意味を同時に覚えられます。

(3) 部首を意識する

漢字の意味を理解しやすくするために、部首に注目しましょう。

(4) 例文で学ぶ

例文で漢字の意味と使い方を学びます。例えば、「学校へ行きます」という文では、「学」と「校」の使い方がわかります。

3. 漢字学習の目標

- ①よく使われる基本漢字を習得する（最初はN5～N4レベルから）。
- ②漢字を使って、単語や簡単な文を読めるようになる。
- ③読むだけでなく、自分で漢字を使った文が書けるようになる。

N3レベルでも、学習者の背景に関係なく、基本的な漢字の説明が必要です。

4. 全体の指導方針

・例文はできるだけシンプルにする：

文法や漢字の学習時には、例文では、一文の長さを短くし、できるだけ既習語彙と文法を使用します。例えば、『山に登ります』はシンプルで覚えやすい例文です。

・文法説明で用いる語句を事前に提示する：

新しい文法や漢字に関連する語句をあらかじめ示すことで、理解をスムーズに進めます。

5. 漢字の練習

指導のポイント

・例文の語彙レベルに注意：

導入する例文では、漢字語彙以外の例文の語彙はN4レベル以下に調整します。それにより、学習者が漢字語彙に集中しやすくなります。

・多感覚を活用した練習：

声に出して書く練習を促すことで、視覚や聴覚を活用し、記憶に結びつけやすくします。

6. 漢字学習における生徒の声の重要性

日本人の学習法とは異なり、外国人学習者には独自のアプローチが求められます。多くの生徒が、漢字を覚える際にイメージを作ることが記憶の助けになると感じています。

具体例：

「払」の漢字 ある生徒は「払」の形がそれほど難しいとは感じなかったものの、なかなか覚えられないと悩んでいました。

→右側の『ム』を『むっとした口元』とイメージすることで、『払』という漢字の形を記憶しやすくなったそうです。

このような“漢字を描く”視覚的アプローチは、漢字学習の効果を高め、楽しくする工夫の一つです。学習者が自分なりのイメージを作る方法を見つけられるよう、教師は適切にサポートします。

7. 復習法

(1) 漢字ビンゴ

漢字ビンゴを授業に取り入れることで、学習者が楽しみながら復習でき、苦手意識が減少します。また、クラス全体で取り組むことで、学習へのモチベーション向上が期待できます。

漢字ビンゴの作り方

◆準備物

- ①ビンゴカード（5×5マス形式）
- ②漢字リスト（JLPT N3レベルの漢字）
- ③マーカー（生徒が印をつけるためのペン）

◆進行方法

- ①教師が読み上げる：漢字の「読み方」または「意味」を言う。
- ②生徒が探す：読み上げた漢字に対応する漢字がビンゴカードにあれば、そのマスに印をつける。
- ③ビンゴ成立：タテ・ヨコ・ナナメのいずれかで1列揃ったら「ビンゴ!」と宣言する。

◆漢字ビンゴシートの例（5×5）

食	宿	理	感	情
安	者	働	面	所
動	料	自	由	達
計	法	休	空	入
知	業	明	意	強

決	生	学	道	習
金	危	在	投	冷
希	取	並	的	政
飛	案	消	配	常
閉	結	増	要	数

出題の例

- ①読み方を言う：「じょうほう」（→生徒は「情」のマスに印をつける）
- ②意味を言う：「仕事をする」（→生徒は「働」のマスに印をつける）
- ③文で出題：「毎日、漢字を勉強します。」（→生徒は「習」のマスに印をつける）

アレンジ方法

- ・ペアやグループ対戦：ビンゴが早く揃ったチームが勝ち。
- ・賞品あり：ビンゴ達成者に小さなご褒美（シールやポイント）を渡すとモチベーションが高まります。
- ・フリースペース：「真ん中のマス」は何でも OK のフリースペースにするとゲームが進みやすくなります。

このビンゴゲームは漢字の「読み」「意味」「文脈」を楽しく学べる活動です。生徒同士で競い合いながら、自然に漢字を復習できるため、授業のアクセントにもなります！必要があれば追加ルールも考えますね。

(2) 自己学習の具体的な方法

◆漢字練習法

漢字日記：毎日学んだ漢字や単語を使って短い日記を書く。

「今日は強い雨が降りました。会社に行くのが大変でした。」

漢字クイズ：毎週、自分で新しい漢字 10 個を選び、「読み方」「意味」「例文」をまとめ、友人や先生にクイズを出す。

◆文法復習法

例文ノート：新しい文法を学んだら、自分の生活に合わせた例文を 3 つ書く。

例) 「～によって」

1. インターネットによって、世界中の人と話せます。
2. 勉強することによって、試験に合格することができました。
3. この本は先生のアドバイスによって書かれました。

(3) 学習計画表の活用

◆学習スケジュール例 (1週間)

曜日	学習内容	時間	ツール/教材
月曜日	漢字 10 個の復習	30 分	〇〇アプリ
火曜日	文法「～によって」の復習	40 分	教科書・例文ノート
水曜日	リスニング練習	20 分	Learn Japanese Pod
木曜日	語彙クイズの作成	30 分	自作の単語カード /Quizlet
金曜日	会話練習 (友人と)	20 分	簡単な日常会話の練習
土曜日	教科書の復習・宿題	1 時間	教科書・ノート
日曜日	学習内容の振り返り・確認	30 分	学習計画表を見直す

(4) 自己学習サポートの工夫

学習ログの記録：毎日勉強したことを短く記録し、達成感を得る。

例 「今日の漢字：働、動、強。意味を確認し、5 回ずつ書いた。」

自己評価の実施：週ごとに「できるようになったこと」と「次の目標」を振り返る。

(5) 自己評価のテンプレート

項目	できたこと	次の目標
漢字	10 個覚えた	次は 20 個に増やす
文法	「～によって」の例文を 3 つ書いた	実際の会話で使えるよう練習する
リスニング	2 つのポッドキャストを聞いた	内容をメモして復習する

まとめ

自己学習の習慣をサポートするためには、具体的な学習方法やツールを示し、小さな達成感を積み重ねられる仕組みが大切です。学習者が自分で進めやすい工夫を提案し、授業外の時間も効果的に使えるよう支援しましょう。

第4章 宿題と復習の進め方

宿題の内容	詳細
音読練習	メインテキストの音読
文法の予習	文法 27～30 の予習（語彙の意味を調べる）
漢字練習	教科書の漢字問題を解く

1. 効果的な宿題の指示

学習者が次の授業に備え、復習と予習を効率よく進める指導方法。

2. 学習習慣を身につけさせる復習法

定着を図るための反復学習や日常的な学習の進め方。

3. 指示

- ・教科書の練習問題を解くよう指導する。不明な語彙については、各自で調べることを促す。
- ・次の授業までに何をすべきかを明確に伝えることで、学習習慣がない生徒にも取り組みやすくなる。

◆宿題の指示例

6月13日の宿題

- ・テキスト本：文法 21～25「やってみよう」を解いてください。
- ・音読練習：テキスト「市民農園の募集（2）」を使って音読練習を行ってください。
- ・まとめの問題：49～53ページのまとめの問題を解いてください。
- ・予習：文法 27～30 を予習し、新しい語彙も調べてください。
- ・漢字：教科書に掲載されている漢字の練習問題を解いてください。

このように具体的に宿題を示すことで、学習習慣が身につけていない生徒にも、次の授業までに何をすべきかが明確になります。

◆第1回目の授業の振り返り

- ・第1回目の授業で学習した文法について、生徒自身が「Can-do」を再確認します。
- ・特に、「市の広報など、身近な情報源の書き言葉に慣れ、理解できる」という目標を設定し、学習の意義を明確にします。

◆作文課題

この目標を達成する一歩として、学習した文法を使った簡単な作文を書いてもらいます。

- ・自分のことを表現することで、実感を得られるようにします。
- ・試験までの半年間を乗り越えるためのモチベーションの向上にもつなげます。

第5章 その他

1. 動詞の活用の課題

- ・日本語の文法学習では、動詞の活用がうまくできず、文法そのものに集中できなくなる生徒が多くいます。
- ・特に「て形」「受身形」「使役形」「意向形」などの活用形は習得が難しく、多くの生徒が覚えるのに苦労しています。
- ・対策：授業前に授業で使用する動詞の活用練習を宿題として取り入れ、授業中の文法学習をスムーズに進められるよう工夫します。事前練習により、生徒は授業で文法の使い方に集中しやすくなり、理解が深まります。

2. 形容詞の活用

- ・い形容詞とな形容詞の活用に混乱する生徒も多いため、形容詞の活用練習も事前に行うことが有効です。

3. 教科書の例文と語彙の課題

- ・教科書の例文には、長文や新しい語彙が含まれることがあります。そのため、例文の意味を授業の前に確認し、不明な語彙があれば事前に調べるよう生徒に促します。
- ・授業中の確認：調べた語彙について、毎回の授業で確認を行い、語彙の理解を深めます。これにより、自主的な学習習慣の形成をサポートします。

4. 語彙の導入における注意点

(1) 「気温」と「温度」

ポイント：「気温」と「温度」の使い分けは、特に学習者にとって混乱しやすい部分です。具体例を挙げて説明することで理解を助けます。

例文：

「東京の気温は 35°C です。」（外の気温）

「部屋の温度は 25°C です。」（室内の空気の温度）

「部屋の温度を下げる。」（エアコンなどを使って調整する場合）

指導ポイント：

「気温」は外の環境(天気)に使います。

「温度」は室内や物体、液体などの温度に使います。

文脈を意識して正しい語彙を選ぶ練習をします。

(2) 「かわいがる」と「わがまま」

ポイント：日本語独自の文化や価値観が反映された語彙のため、背景説明を交えて指導することで、理解を深めます。

◆「かわいがる」の文化的背景

説明：

- ・「かわいがる」は、親が子どもやペットに優しく愛情を注ぐ行為や、上下関係で指導や世話をする行為を表します。
- ・一般的にポジティブな意味で使われますが、時には「厳しい愛情」も含まれることがあります。

例文：

親子関係

「おばあちゃんは孫をとててもかわいがっています。」（典型的な親や祖父母の愛情表現）

ペット

「彼は犬を家族のようにかわいがっています。」（動物に対する愛情）

上下関係

「先輩は後輩をよくかわいがります。」（職場や学校での世話や指導）

補足：

「かわいがる」は、「いじめる、痛い目に合わせる」という意味で、反語的に使われることもあります。

例：「あいつは最近生意気だから、かわいがってやろう。」

◆「わがまま」の文化的背景

説明：

- ・日本では集団の調和を重視する文化があります。そのため、個人の意見や欲求を優先する行動は「わがまま」として否定的に捉えられます。
- ・「わがまま」は「自分勝手」「他人を考えない」といったネガティブな評価につながります。

例文：

子どもの態度

「子どもが『お菓子をもっと買って!』とわがままを言いました。」

(親に自己中心的な要求をする場面)

友人関係

「彼女はいつも自分の意見だけを通そうとする、わがままな性格です。」(協調しない行動)

職場や学校

「チームのことを考えず、自分の都合だけで行動するのはわがままです。」

(集団行動を重視する場面での批判)

補足：

「わがままを直す」ことは、日本では成長や大人になることと結びつけられています。

例：「わがままばかり言わないで、少し我慢しなさい。」

◆指導における注意点

- ・学習者が混乱しやすいニュアンスや文化背景については、具体例や場面を示すことで、イメージしやすくします。
- ・英語やポルトガル語と比較しつつ、日本語の独自性を説明すると効果的です。

5. 複合動詞について

複合動詞の使い方を、具体例を通じて指導します。

例：

- ① 買い物に行く。
- ② 買い物に行ってくる。

「～てくる」には「行って、行動を完了し、その後戻る」というニュアンスがあります。

視覚化の工夫：

「行く→買い物をする→戻る」の流れをイラストで示すと理解しやすくなります。

他の例：

- ①服を買う。
- ②服を買ってもらう。

※複合動詞は自然な表現ですが、学習者にとって応用表現のアウトプットは難しいため、繰り返し練習が重要です。

6. オンライン授業でのツール活用

オンライン授業では、学習者の集中力を維持し、授業を効果的に進めるために、以下の具体的なツールと活用法を取り入れることが有効です。

(1) Quizlet (クイズレット)

概要：語彙や漢字を覚えるためのデジタル単語カードツール。

活用例：

- ・ **語彙・漢字学習：**「読み方」「意味」「例文」のカードセットを作成し、生徒が反復練習できるようにする。
- ・ **ゲーム形式：**「マッチ」や「テスト」機能を使い、学習者同士でタイムを競わせることでモチベーションを高める。
- ・ **復習：**授業後にリンクを共有し、自主学習を促す。

(2) Kahoot! (カフート)

概要：クイズ形式のオンライン学習ツール。リアルタイムで参加者の回答が表示される。

活用例：

- ・ **漢字クイズ：**「読み方」「意味」「部首」などの問題を作成し、正解率や反応をリアルタイムで確認する。
- ・ **文法理解度チェック：**新しい文法を導入した後に、選択式のクイズで理解度を測る。
- ・ **競争を通じた復習：**生徒が楽しく学べるよう、ランキング表示やタイム制限を活用。

(3) Google Jamboard (ジャムボード)

概要：デジタルホワイトボード。共同作業や発表に使えるツール。

活用例：

- ・ **文法練習：**学習者に文の一部（例：「～によって」）を使った文を考えさせ、書き込みをしてもらう。
- ・ **漢字の部首探し：**「水」や「木」などの部首を中心に、関連する漢字を書き出してもらうアクティビティ。
- ・ **グループワーク：**ペアやグループで1つのジャムボードを共有し、意見や答えを書き込む。

(4) Google Forms (フォーム)

概要：理解度確認や授業評価のためのアンケートツール。

活用例：

- ・ **小テスト作成：**授業後に短い小テストを作成し、語彙や文法の定着度を確認する。
- ・ **アンケート：**学習者の授業満足度や理解度について意見を集め、次回の授業改善に役立てる。
- ・ **宿題提出：**記述式の問題や作文の提出フォームとして活用。

まとめ

これらのツールを活用することで、学習者の集中力を維持しつつ、インタラクティブで効果的な授業を展開できます。特に漢字や文法学習では、反復練習やゲーム要素を取り入れることで、苦手意識の軽減にもつながります。授業の目的や内容に合わせて最適なツールを組み合わせ、学習効果を最大化しましょう。

(5) スライド&ホワイトボード

スライドのメリット

- ・ 情報を整理し視覚的に伝えるのに効果的。
- ・ アニメーションや画像で学習者の興味を引ける。

スライドのデメリット

- ・ 学習者が画面上の文字だけに頼り、理解が浅くなる可能性がある。

ホワイトボードのメリット

- ・ 手書きによる柔軟な対応が可能で直感的理解を促進。

ホワイトボードのデメリット

- ・書く時間がかかり、効率が落ちることがある。

これらの特性を考慮し、授業内容に応じて最適なツールを選択します。

7. 例文を英語やポルトガル語に翻訳する際の問題点

翻訳により日本語のニュアンスが失われることがあります。

例：「～てくる」には「行動の完了」や「話し手の視点」が含まれますが、他言語では表現しづらい場合がある。

原文のニュアンスを学習者に直接伝えるため、翻訳後の例文だけに頼らず、補足説明を加えます。

8. 授業中の生徒発言の必要性

発言のメリット：

- ・生徒が発言することで考えを整理し、言葉にする努力を促す。
- ・思考が深まり、学びが充実する。
- ・対話型の授業を通じて、学習の質を向上させる。

発言のデメリット：

- ・質問が多すぎて授業の流れを崩してしまう：

生徒からの質問が多くなることで、授業の進行が遅れたり、予定していた内容をすべてカバーできなくなることがあります。これにより、他の生徒が集中力を失う可能性もあります。

解決策：

授業中はその場で学んでいる内容だけに限るようにしましょう。これにより、質問が授業の進行を妨げないようにします。その他の質問については、授業後に別の時間を設けて対応するようにすることで、授業の流れを維持しながら、生徒の疑問を解消することができます。

9. 学習者の自己学習支援

授業外での学習習慣を身につけるために、学習者が自分で取り組める具体的なリソースや学習方法を提案します。

◆オンラインリソースの紹介

①リスニング練習用コンテンツ

YouTube チャンネル：

- ・ JLPT レベル別の文法解説動画。学習者が文法の復習や予習に使える。
- ・ ゆっくり話す日本語で日常会話やストーリーを聞ける。

ポッドキャスト：

- ・ 「ひいきびいき」：自然な日本語の会話がが多く、リスニング力向上に役立つ。
- ・ 「Learn Japanese Pod」：初心者～中級者向けで、テーマごとの日本語会話を学習できる。

②漢字・語彙学習アプリ

- ・ 「Kanji Study」：JLPT レベルに合わせた漢字の練習ができるアプリ。書き順や意味の確認が可能。
- ・ 「Anki」：自分専用の単語カードセットを作成し、語彙や漢字を反復練習できる。

10. 学習者向けの簡単な「振り返り活動」

(1) 今日の学びを1つ書く(シンプル版)

目的：学んだ内容を言語化し、記憶の定着を図る。

活動の流れ：

指示「今日の授業で新しく学んだことを1つ書いてください。」

書く内容例「～によって」の使い方を学んだ。

「働」という漢字の書き方を覚えた。

時間：2分

ポイント：授業内容を具体的に振り返ることが重要です。短い時間で終わるので、負担が少なく取り組みます。

(2) 学んだ漢字や語彙を使った短文作成

目的：学習内容をアウトプットし、実際に使える力を養う。

活動の流れ：

指示「今日学んだ漢字や語彙を使って、短い文を書いてください。」

例 漢字「働」→母は毎日働いています。

文法「～によって」→インターネットによってたくさんの情報が見つかります。

時間：5分

ポイント：授業で取り上げた語彙や文法をすぐに使わせることで、理解度の確認と定着が期待できます。

(3) ペアで共有する「学びのシェアタイム」

目的：振り返りを共有し合い、学びの再確認をする。

活動の流れ：

指示 「今日学んだことをペアと話し合ってください。」

例 「～によって」の文法の使い方がわかった。

発表 クラス全体で1～2人に共有してもらう。

時間：3分

ポイント：他の学習者の気づきを知ることで、知識が整理され、学びが深まります。アウトプットの練習にもなります。

(4) ミニ「できること」チェックリスト

目的：自分の進歩を確認し、達成感を得る。

活動の流れ：

授業後に「Can-do リスト」にチェックを入れさせる。

例 「今日、できるようになったこと」：

- ・「～によって」の文法を使った文が作れる。
- ・新しい漢字を2つ覚えた。

時間：2分

ポイント：学習者が達成感を持ち、次の目標を意識しやすくなります。

(5) 「一言リフレクションカード」

目的：学んだ内容の感想や気づきを簡潔にまとめる。

活動の流れ：

カード配布 「今日の授業について一言書きましょう。」

例 「新しい文法が少し難しかったです。」

「漢字の練習が楽しかったです。」

時間：3分

ポイント：学習者の感想や疑問を知る手がかりにもなり、次回の授業改善に役立てられます。

11. 教師の自己評価と成長支援

指導者自身が授業の質を向上させ、成長を続けるために取り組める具体例を以下に示します。

(1) 授業後の自己評価シート

毎回の授業を振り返り、改善点や成功点を記録するシートを作成します。

◆自己評価シートのテンプレート

項目	内容を記入
授業の目的	今日の授業の目標は何だったか？
達成度	目標は達成できたか？ 理由は？
良かった点	成功した活動や工夫したポイントは何か？
改善点	うまくいかなかったこと・理由
学習者の反応	学習者の理解度・集中力・発言状況は？
次回への課題と工夫	次回の授業で取り入れる工夫や改善策は？

(2) 授業録画・見直し

オンライン授業では、授業を録画し、後で自分自身の授業を振り返ることで指導法の改善点を発見します。

注目ポイント：

- ・話し方 スピード、言葉の選び方、声の大きさは適切か？
- ・時間配分 各活動にかける時間は適切だったか？

- ・学習者の反応 学習者の表情や発言の頻度はどうだったか？

(3) 他の教師との授業共有・意見交換

教師間の勉強会：

- ・同じ教材を使っている他の教師と定期的に勉強会を開き、授業の進め方や工夫を共有する。
- ・例 「～によって」の文法導入で使った例文や視覚教材のシェア。

ペア・オブザベーション：

- ・他の教師の授業を見学し、良い点や参考になる指導法を学ぶ。
- ・自分の授業も見てもらい、フィードバックを受ける。

(4) 教師向け研修・セミナー参加

定期的に教師向けの研修やセミナーに参加し、新しい指導法やツールを学びます。

具体例：

- ・日本語教育学会の研修 最新の教育法や指導ツールについて学べる。
- ・オンライン研修 Zoom や YouTube で公開されている教師向け講座（例：「アクティブラーニングの方法」）。

(5) 振り返り日記の作成

毎週1回、授業の振り返りを日記形式で記録し、自分の成長を確認します。

項目例：

- ・今週の気づき 「漢字学習で視覚教材を増やしたところ、生徒の理解が早くなった。」
- ・今後の挑戦 「次回はもっとインタラクティブな活動を取り入れて、発言の機会を増やそう。」
- ・学習者の反応 「文法の説明をシンプルにしたら、質問が減った。」

(6) 教材のブラッシュアップ

指導しながら教材の改善点を記録し、授業後に次回に向けた修正を行います。

例：

- ・文法解説 「～によって」の例文が難しかった→簡単な例文に変更。
- ・アクティビティ ビンゴゲームが好評だったので、他の文法にも応用する。

(7) 学習者からのフィードバックを活用

学習者に授業後アンケートを実施し、改善点や要望を取り入れます。

フィードバックの例

質問項目	学習者の回答(例)	改善点
授業の内容は分かりやすかったですか？	「文法説明が難しかったです。」	説明をより簡単な言葉で行う。
授業で楽しかった活動は何ですか？	「漢字ビンゴゲームが楽しかったです。」	他の漢字や語彙にもゲームを導入する。

まとめ

教師の自己評価や成長支援のためには、振り返りと他者との共有が重要です。授業後に自分の指導を見直し、学習者の反応やフィードバックを取り入れることで、より効果的な授業を実現できます。定期的な研修や他の教師との交流を通じて、自分自身の指導力向上にも繋げましょう。

12. 文化理解とビジネスマナー

ポイント：日本語学習は言語だけでなく、文化や社会的な習慣を理解することが重要です。学習者が日本での実生活や仕事で役立つ知識を得られるようサポートします。

アニメや漫画と社会的な場でのギャップ

アニメや漫画から日本語を学び始める学習者が多いですが、社会的な場では文化的背景やマナーを理解する必要があります。

◆特別授業 ビジネスマナーと文化セッション

概要：

- ・頻度 月に2回
- ・時間 各回10分程度
- ・講師 外部講師によるセッション

目的：

- ①実生活での応用力を高める。
- ②日本の多様な価値観や習慣を理解する。

例：

名刺交換の仕方、電話対応のマナー、敬語の使い方などを取り入れると、学習者の興味を引きやすくなります。

◆本音とたてまえ

よくある質問：

- ・「どうして日本人は本当のことを言わないんですか？」

→学習者からのこのような質問は、日本文化を理解するきっかけとなります。

たてまえの背景：

- ・日本では、調和を重視する文化があります。このため、「たてまえ」は相手を尊重し、場の空気を良くするために使われます。
- ・たてまえはウソではなく、コミュニケーションを円滑にするための工夫と考えられます。

具体例：

本音 「この料理はあまり好きではない。」

たてまえ 「美味しそうですね。でも、今はお腹がいっぱいです。」

→直接的な否定を避け、相手を傷つけない表現を用いる。

他文化との比較：

- ・率直さを重視する文化 → 「好きではない」と率直に伝えることが誠実だとされる。
- ・日本文化 → 間接的な表現やたてまえを使うことで、調和を保つ。

学習者への指導：

- ・たてまえのポジティブな側面を伝え、文化的背景や理由を補足します。
- ・他文化との比較を交えることで、日本文化の特徴を理解しやすくします。

◆試験対策と実践的な学びのバランス

学習者が試験だけでなく、日常生活や仕事で使える日本語を学べるよう、以下のポイントを重視します。

- ・バランスの取れた授業運営。
- ・文化的背景やマナーを具体例とともに伝える。
- ・学習者自身が興味を持ちやすいトピックを取り入れる。

◆アクティビティの例

・ディスカッション：

「あなたの国では、調和を保つためにどのような表現を使いますか？」など、学習者同士で文化を比較する場を設ける。

・ロールプレイ：

名刺交換やたてまえの場面を演じる活動を行い、実践的な練習を取り入れる。

13. 敬語導入の注意点

(1) 学習者の現状

- ・多くの学習者は、カジュアルな表現と丁寧語の使い分けにまだ慣れていない状態で、尊敬語や謙譲語を学ばなければなりません。
- ・「尊敬語」や「謙譲語」の意味は、母語に翻訳することで理解できている場合が多いものの、実際の会話での使い方には課題があります。

(2) 注意点

- ・教材では、「尊敬語」や「謙譲語」に変換する練習問題が中心で、例えば「ご覧になりましたか？」に「はい、ご覧になりました。」とおうむ返ししてしまうことがよくあります。
- ・このような練習は形式的になりがちで、実際の会話に役立てるには工夫が必要です。

(3) 実用的なアプローチ

- ・敬語は、多くの場合聞き手として使う場面が多いため、まずは「聞いて意味を理解する」ことを重視します。
- ・必ずしも無理に尊敬語や謙譲語で返答する必要はなく、丁寧語で返答しても問題ないことを伝え、学習者の負担が軽減されます。

(4) 日常会話と試験対策のバランス

- ・日本語教材は、ビジネスシーンでの敬語に重点を置きがちですが、多くの学習者は日常的なコミュニケーションのために日本語を学んでいます。
- ・試験対策授業であっても、日常会話や自然な日本語を使える力を育てることを意識します。
- ・N3合格が目標であっても、学習者が実際に使える日本語を身につけられるよう、教材の使い方に工夫を凝らします。

(5) 指導の意義

- ・学習者が試験に合格するだけでなく、日本語を使ってスムーズにコミュニケーションできるようサポートします。
- ・試験対策授業であっても、「自然で実用的な日本語」を重視することで、学習者の満足度や実力向上につながります。

14. 模擬試験

使用教材：

日本語能力試験公式問題集(2012年発行および2018年発行)が公式サイトで共有されています。第24回目と第25回目の授業では、これらの問題を一緒に解きます。

進め方：

- ①事前準備 授業前に問題を解いてくるよう伝え、解き方を口頭で説明します。
- ②授業内演習 試験当日と同じ形式で問題を解き、その後、必要に応じて詳しく解説を行います。

読解問題の注意点：

- ・計画的に進めないと時間が足りなくなることがあるため、時間配分を意識することを指導します。
- ・読解のやり方は、説明だけでなく、実際に問題を解く練習を通して身につけることが重要です。

一通りの練習の重要性：

生徒には、一度問題を通して解いてみるように指導し、当日の実践力を養います。

N3 文法リスト（教科書：トライ N3 を参考に）

番号	項目
21	～による／～によって
22	～に対して
23	～ため(に)
25	～とおり
27	～のよう(に／な)
28	～によれば
29	～ということ／～とのこと
30	～について(は／も) / ～についての+名詞
31	～てる／～とく
32	～なきゃ
33	～つけ
35	～たって
36	～に決まっている

番号	項目
37	～じゃない
39	～みたい
40	～ばよかった
41	～ばかり
42	～ようだ／～ように／～ような+名詞
43	～はもちろん
44	～ほど～ない
45	～かわりに
46	～ずに
47	～まま
48	～入れ
49	～ところ
50	～きって

番号	項目
51	～おかげ
53	～ませんか
54	～というと／～といえば／ ～といったら
55	～べき／～べき + 名詞
56	～にとって
57	～ば～ほど
58	～による + 名詞／～によって
59	～ばかりでなく～も
60	～たび(に)
61	～はず
62	～ですと／～ますと
63	～ようなら／～ようだったら
65	～もので／～ものですから
68	～うちに
69	～たばかり
70	～ばいいのに
71	～てもらってもいいですか
72	(お／ご～)いただく／くださる
74	特別な謙讓語
75	(お／ご～)です 尊敬語
76	～でしょうか
77	～でいらっしゃる
78	～させていただく／～させていただきます
79	～てからでなければ／ ～てからでないと
81	～うちに

番号	項目
83	～によって／～による + 名詞
84	～最中(に)
85	～かけ
87	～わけがない(～はずがない)
88	～しかない
89	～からこそ
90	～なんか
91	～っこない
92	～からといって
93	～とはかぎらない
95	～くせに
96	～っぽい
97	～せい
98	～のことだから
99	～気味
100	～なんか～ない
101	～さえ
102	～くらい
103	～っぱなし
104	～だらけ
106	～らしく
107	～かと思った
108	～とか～とか
109	～ついでに
111	～ほど～ない
113	～てしょうがない／～てしかたがない ／～てたまらない

文法項目の導入に関する考察

文法 21、58、83 は「～によって／～による」ですので、まとめて一度に導入するか、教科書の順番通りに導入するかを検討する必要があります。一つの項目だけを導入すると、「こんな使い方もありますよね?」といった生徒の質問がよくあります。その際、どのように対応するかが重要です。

質問をしている生徒は、自分なりにしっかりと学習している証拠ですので、指導者として適切に対応する必要があります。例えば、次のような対応が考えられます。

- ・質問の内容を受け入れ、関連する他の文法項目を簡潔に説明する。
- ・質問への回答を後回しにし、次の授業で詳しく説明する時間を設ける。
- ・質問の内容を授業後にまとめて配布する資料に追加し、生徒が自主的に復習できるようにする。

このように柔軟な対応を通じて、生徒の理解を深め、学習意欲を高めることができます。

最後に

これまでご紹介したポイントを踏まえ、生徒が授業内容を効果的に理解し、持続的な学習習慣を身につけられるよう尽力してまいります。試験対策に限らず、日常会話や実践的な日本語も習得できるよう、バランスの取れた指導を心がけます。限られた時間の中で最大限の成果を引き出すため、常に生徒の声に耳を傾け、改善を図る姿勢が重要であり、ニーズに応じた柔軟な対応と創意工夫を怠りません。

私たちは、生徒一人ひとりが日本語を通して自信を持ち、新たな可能性を広げられるよう、全力でサポートいたします。日本語を学ぶことで彼らの未来が切り拓かれることを願い、教育者としての使命を果たしてまいります。共に学び、共に成長できる環境を提供することを目指しています。

未来の指導者へのメッセージ

教育は人と人を結び、新しい可能性を切り拓く素晴らしい役割を果たします。未来の指導者となる皆さんも、生徒と共に学び合いながらその役割を担っていくことでしょう。私自身、指導を通じて多くの気づきや成長を得ています。皆さんも指導を続ける中で、学びの喜びや生徒の成長を実感する場面が数多く訪れるはずですよ。

特に、日本語を指導する上では、文法や語彙の知識だけでなく、日本の文化や常識への理解が重要です。日本語は単なる言語ではなく、日本人の価値観や考え方が深く反映されています。そのため、学習者に言葉の背景を伝え、文化の橋渡しをすることも指導者としての大切な役割です。外国籍の皆さんが持つ異なる視点は、この役割を果たす上で大きな強みとなります。自分自身の経験や母語文化を活かしながら、学習者にとって分かりやすく魅力的な指導を行ってください。

大切なのは、生徒一人ひとりに寄り添い、彼らの可能性を信じることです。そして、指導者自身も成長を楽しみ、柔軟な姿勢で新しいことに挑戦し続けることが求められます。教育は一方通行ではなく、共に作り上げていくものだとは私は信じています。

未来の指導者の皆さんと共に、教育という旅路を歩む仲間として、より良い学びの環境を築いていけることを楽しみにしています。

ブラジルにおけるキャリアアップ支援事業／草の根技術協力事業

Manual do sensei da ABC

Ensinando Japonês.

Um Guia Prático para Educadores

日本語教師を目指すあなたへ

JLPT N3 レベルの日本語指導法

発行日：2025年2月10日 第1版 第1刷発行

発行者：NPO 法人 ABC ジャパン

〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央 4-7-15 ラカンパーナ キソヤ 302

TEL：045-550-3455

著者：アリシア 横江

制作：「日本語教師を目指すあなたへ」編集委員会

デザイン：スタジオクッカバラ



Sobre a ABC

Manual do sensei da ABC

Ensinando Japonês

Um Guia Prático para Educadores

日本語教師を目指すあなたへ

JLPT N3 レベルの日本語指導法

ブラジルにおけるキャリアアップ支援事業/草の根技術協力事業
Projeto de Apoio ao Desenvolvimento Profissional no Brasil / Projeto Kusanone

実施団体



カウンターパート



委託元

